

最近の国内株式市場の下落について 高値警戒感があるところに複数の不透明要因が重なる

2021年3月25日

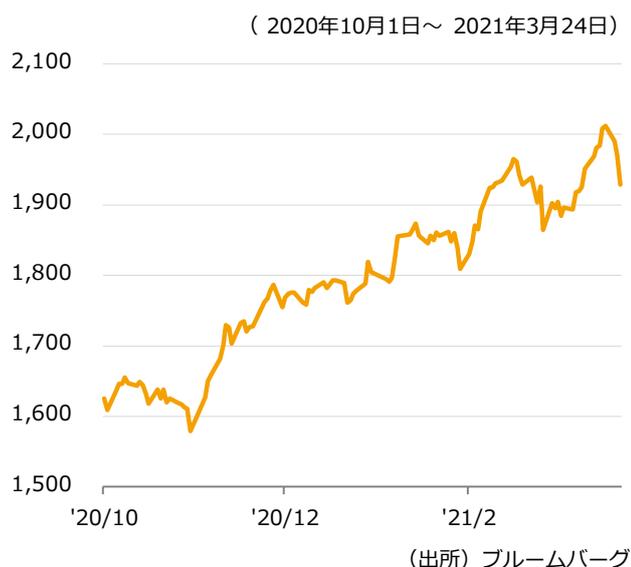
不透明要因が増えたものの、調整は一時的なものにとどまろう

3月24日（現地、以下同様）の国内株式市場では、TOPIX（東証株価指数）が前日比2.18%下落し3営業日続落、日経平均株価が同2.04%下落し4営業日続落となりました。18日以降、米国株式市場が軟調に推移するのに連れて、欧州やアジアの株式市場でも調整色が広がっています。

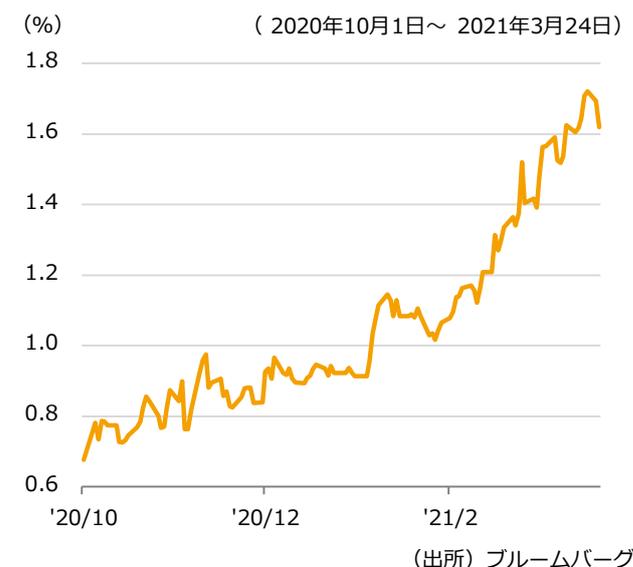
株価下落の理由としては、元々高値警戒感があったところに、以下のような事象が重なったためと考えられます。①米国10年国債利回りが一時1.7%台まで急上昇したことを受け、米国株が下落したこと、②米国が銀行の自己資本に関する規制の一時的な緩和を延長しなかったこと、③欧州やアジアなどで新型コロナウイルスの感染再拡大がみられること、④その影響もあり、ドイツやフランスなどでロックダウンが延長や強化されていること、⑤EU（欧州連合）が新型コロナウイルスワクチン輸出規制を強化する方針と報じられたこと、⑥トルコの中央銀行総裁が解任され同国の金融市場に混乱が広がったこと。

このうち米国金利の上昇は、足元、株式市場が非常に警戒している点であり今後の動向に注意が必要ですが、そもそも金利の上昇は景気回復期待の高まりによるものであるため、ある程度の期間で見れば金利上昇と株価上昇は並立し得るものです。また、当面は新型コロナウイルスの感染再拡大にも留意する必要がありますが、主要国におけるワクチン接種が進むに連れて次第に感染拡大は抑制され、各国の景気回復基調も維持されると想定しています。したがって、ここ数日、やや不安定化している株式市場ですが、調整は一時的なものにとどまり、中長期的な下落基調に転換するリスクは低いと考えます。

TOPIX



米国10年国債利回り



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。